

社会学委員会 東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会
(第24期・第6回) 議事要旨

1. 日時 平成30年11月10日(月) 11時00分～12時00分
2. 会場 郡山市民交流プラザ大会議室(郡山ビッグアイ7階)
3. 出席者：
吉原直樹、岩井紀子、青柳みどり、岩渕明、増田聡、山川充夫
(欠席)島藺進、山下祐介、町村敬志、玉野和志

(分科会はじめ)

吉原：出欠および交通費について確認

岩井：総合討論の冒頭で、国の関連会合にも委員として出席している岩淵先生に政府の動きなど全体の動きをお話しいただいたらどうか。

山川：学術の動向編集委員会での議論の紹介。

5月以降の案として、特に原子力工学から特集を組みたいという話が来た。学術会議でも検討することになり、山川先生がコーディネートすることになった。原発だけでなく福島関連で多くの分科会が動いているので、バラバラではなくて特集にしたらどうかという話になっている。

岩淵：地元ではいろいろ動いている。8年経って、現状を述べることは可能。我々も、首都圏報告会を12月に実施している。昨日も復興庁の復興委員会があった。原発は大きなファクターだが、それ以外の話題としては、心のケア。これは、各県で対応していて、心のケアセンターなど設置している。今後、いろいろ出てくるだろう。医療の専門だけではなく、程度はいろいろなので、臨床心理とか傾聴ボランティアなどレベルに応じた対応を継続的にやっていかなければならないという話になっている。公園(伝承館)、各県つくることになっている。そこに入れるコンセプト(ミュージアム)が宮城も岩手も固まっていない。伝承、風化を防ぐ、教育としてという方向は共通しているが、何を入れて、どうスタッフをはいちして、のところが固まっていない。

岩手大で復興防災会議をした。岩手大、福島大、東大で集まった。福島大はうつくしま関係者が参加。東北大は自然科学だけでなく人文科学で、という発想があったようだ。

吉原：こちらとしては、分科会の委員にお任せした方が良いかと思う。人選は山川先生にお任せしたらどうか？

山川：福島から思考を広げたいと思っている。依頼をしたらお願いしたい。

吉原：関心をもっている出版社があるので、モノグラフをまとめたいて考えている。

増田：量が膨大にありすぎて、どうまとめるのか。

吉原：ミクロの問題、心の問題。復興。アーカイブなどがあげられる。

岩淵：大学は70周年。3部作の最後は震災復興・関わった先生が定年になっていく前にまとめたい。継続的なもの（放射線検査など）は大学の役割は大きい。自覚しておく必要がある。

岩淵：いろいろテーマはあるが、マクロな復興とミクロな復興ということがいつも出てくる。心はミクロ。復興庁はほぼ完了。のこされた5%はどうにもならない。政治、行政、市民でどうバランスをとっていくか。

吉原:マクロの方はどうしても幕引きということが出てくる。

次回以降について。

分科会のまとめ、論点の整理をした方がよいと思う。

(1月21日の週、28日の週で調整。旅費についても確認)